

平成21年度「吉野ネットワーク交流事業 人材育成研修会」活動報告

平成19年より「吉野ネットワーク交流事業 人材育成研修会」を実施し、今回で第3回目の開催となりました。この研修会は、学生の人材育成と交流を目的とし実施しています。講師は、「読売・吉野作造賞」を受賞された先生を中心に構成され、参加者は関西・関東・東北の大学生に参加していただきました。

研修会は2泊3日の合宿形式で、吉野作造記念館の見学、講師からの講義をはじめ、様々なテーマに基づく全体討論を行いました。研修会の最後には、参加者より研修で学んだ成果や今後の展望等を発表していただきました。

講師 6名

猪木 武徳 氏	国際日本文化研究センター所長
阿川 尚之 氏	慶應義塾大学総合政策学部教授
清水 唯一朗 氏	慶應義塾大学総合政策学部専任講師
大川 真 氏	東北大学大学院助教
奈良岡 聡 智 氏	京都大学法学部准教授
小川原 正道 氏	慶應義塾大学法学部准教授

参加者 京都大学3名、慶應義塾大学5名、東北大学6名

研修会のテーマ「日本近代史と吉野作造」



8月31日

- オリエンテーション（講師・参加者紹介）
- 吉野作造記念館 見学

9月 1日

- 講義「公智と友情の書としての『丁丑公論』」
猪木 武徳 氏
- 講義「吉野作造と二十一カ条要求」
奈良岡 聡 智 氏
- 「グループセッション」
参加者を「吉野班」と「福澤班」に分け討論。

9月 2日

- 研修会成果報告会、旧有備館視察

参加者インタビュー動画公開中

参加者のインタビューを当館ホームページにて動画配信しています。視聴希望の方は当館ホームページをご覧ください。

<http://www.yoshinosakuzou.jp/>

「吉野作造記念館」で検索!!

参加者感想文紹介

吉野ネットワーク交流事業

人材育成研修会を終えて

東北大学大学院文学研究科博士課程後期 手嶋 泰伸

今回の研修事業では、大変貴重な経験をさせていただきました。高名な先生方と、あれほどゆっくりお話し出来る機会は、通常の学会・研究会・セミナー等にはなく、また講演の内容についても、非常に興味深いもので、本当に有り難い機会でした。

今回の研修事業をきっかけに、吉野作造への興味を新たに、研修事業後彼の政治学に関する論文を数篇読む内に、彼の議論が意外にも私の研究と関連することがわかってきたため、現在本腰を入れて分析を進めようと考えております。

ところで、研究者にとって論文が後生にわたり「活用」されることは、共通の切なる願いと言えるでしょう。ただ単に名前が残るということではなく、学説として参照され続けるということは極めて稀なことであり、人文系の論文の寿命は長くてもせいぜい30年程だと言われております。吉野にとってもそれは例外ではなく、政治体制そのものが大きく変わった中で、当然、吉野を先行研究として引用する政治学者はおりません。

しかし、吉野は全く過去の人なのかというと、必ずしもそうではないということが今回の研修事業で

わかりました。今回の研修事業では、奈良岡先生が吉野の中国観に焦点を当てられましたが、討論の中でみえてきたのは、社会生活の中で守るべき道徳、即ち公德を如何に国内政治・国際政治の中に反映させていくのかを模索し続けた、吉野の言論空間全体に通じる特徴でした。その吉野の姿勢こそは、古川の地から日本中へ、そして世界中へ発信し得る、吉野の言論の普遍的な価値の1つなのでしょう。

歴史上の一事・一文をその文脈を無視してとりあげ、安易に現在への教訓としようという風潮はいつの時代にもあり、また最近特に非道くなっていると感じますが、吉野という人物からは、その人生や言論空間全体を俯瞰したとき、そういった皮相的な議論を寄せ付けない、本当の歴史の教訓を取り出すことが可能ではないでしょうか。少なくとも私は、今回の研修事業でそういったもののごく一部ですが、つかみ取れたような気がしています。歴史学を学ぶ者にとって、そうした意義深い機会を与えて下さった吉野作造記念館の皆様、心よりお礼申し上げます。